



2009ITUトライアスロン世界選手権横浜大会男子レース速報 男子優勝はヤン・フロデノ、田山は13位

同日開催のユースでは工藤駿(チームケンスジュニア)が優勝

8月23日(日)、神奈川県横浜市の山下公園と市内を中心とする特設コースで、昨日に引き続き2009ITUトライアスロン世界選手権横浜大会のユース男子とエリート男子のレースが行われ、会場にはおよそ15万人の観客が参集した。

昨日に引き続き高い気温と水温、さらに照りつける日差しがコンクリートの道を熱する。湿度は昨日に比べ若干下がったとはいえ、体感温度は変わらず暑く、選手は横浜の気候に悩まされた。

午前10時スタートのエリート男子は、スイム序盤ほぼ差はなく集団で進み、ジョシュア・アンバーガー、シェーン・バリーのオーストラリア勢がスイムをトップで上がった。直後をビバン・ドカティ(ニュージーランド)、田山寛豪(NTT東日本・NTT西日本/流通経済大学職員)、ヤン・フロデノ(ドイツ)らが追い、大所帯でトランジションに飛び込んだ。

バイクの2周目に、田山を含む14人が第1集団を形成。直後の第2集団には杉本宏樹(箕面スイミングスクール)がいて、第1集団に追いつき、さらに大きな第1集団となった。20人になったところでさらに後続の集団が合流。総勢31名になるが、6周目でカートニー・アトキンソン(オーストラリア)が飛び出し、フロデノとマイク・ペッツォルド(ドイツ)が後を追った。この3名は、そのままトランジションに入り、直後を第2集団となった大集団がト



山下公園に特設されたボンツーンから飛び込む選手たち



横浜コスモパーク前を折り返すバイクコース

JTU Official Partners & Official Suppliers



ランジョンに入った。ここには、山本良介(トヨタ車体)、山本淳一(稲毛インター)、田山らが入っていた。

ランでは、フロデノが自力を発揮。ハビエル・ゴメス(スペイン)、クリス・ゲメル(ニュージーランド)、ローラン・ビダル(フランス)らの集団から抜け出すと、この3名に一気に置き去りにして差を広げた。3周目でフロデノは、後続に35秒ほどの差をつけ、最終的に後続との差は縮まったものの、1時間44分31秒でトップフィニッシュ。日本選手は、13位に田山、14位にバイク、ランで調子の良さがうかがえた細田雄一(グリーンタワー・稲毛インター)、15位に山本良介、16位に高濱邦晃(チームコラテック・ボディチューン)、20位に山本淳一、25位に福井英郎(トヨタ車体)、28位に杉本、29位に樫浩平が入った。

同日行われたユース男子は、優勝候補とされていた工藤駿(チームケンズジュニア)と大谷真史(チームゴーヤー)がバイク、ランで激しいサイド・バイ・サイドを繰り返し、工藤が56分12秒で優勝した。ユース3位までの結果は以下のとおり。

- 1位 工藤 駿(チームケンズジュニア) / 56:12
 2位 大谷 真史(チームゴーヤー) / 56:22
 3位 古屋 純平(大阪府協会) / 57:18

なお、レースの様子はフォトギャラリーでもご覧になれます。



田山、山本良介はランで健闘したが、表彰台には届かず

ヤン・フロデノ ドイツ



昨年の北京オリンピックで金メダルを取って以来の大きな勝利。もちろん、WCSは初優勝で嬉しい。北京が終わった後は、練習の場をオーストラリアに移して鍛えていた。これで、WCS グランドファイナルの目処もついたし、3年後のロンドン・オリンピックへいいスタートになった。

工藤 駿 チームケンズジュニア



バイクの調子が悪くて、どうなることかと思った。ランでは大谷選手とずっと競り合っていたのがよかった。2周目にはいったことでも先行されたが、そのあとはついて行って最後の折り返し手前でスパートをかけて引き離れた。来週はアジア選手権に出る。

田山 寛豪

NTT東日本・NTT西日本 / 流通経済大学職員



やっと自分らしいと思えるレースができた。前週のロンドンではスイム・バイクと調子もどっていたので、13位の結果には満足できる。前半戦は苦しいが、夏合宿で多くのアスリートと練習できていい結果が残せた。来週はアジア選手権。

JTU Official Partners & Official Suppliers

